



村民一人ひとりが主役 あきらめないために

山中湖村の村長選挙は、十一月二九日告示で、十二月四日投票です。現在の立候補予定者は二名で、四年前と同じ顔ぶれです。両者とも立候補声明や決起大会を終え、両陣営は、激しい選挙戦を展開しています。しかし、きれいなことはもう、十分です。樋口は、村民の方々から「どうするか」「どのように考えているのか」と電話などで問われます。この機会に、現時点での考えをまとめてみることにしました。

四年前の村長選では、一村民として現職の高村文教氏を支持し、友人知人にも文教氏への支援をお願いしました。文教氏とは一期目の平成十五年四月から村議会議員の同期でした。翌年の十一月の村長選の時、それまでの借金による生コン・箱物行政の変革をめざし、議員任期途中の文教氏を候補に擁立し戦いましたが、141票の差で及びませんでした。それから八年後が四年前の村長選挙です。候補者は、36年間村の職員を務めた高村正一郎氏と以前敗れている文教氏です。樋口は両候補者の意見や考え方を直接聞くとう双方に電話したところ、正一郎氏からは、時間がないとの理由で断られ、一方の文教氏からは「初心は変わらない」という

復帰しました。そこで、行政のチェックおよび監視役を付託された議員の視点と、四年前の選挙で文教氏への支援をお願いした方々への責任として、文教村長の四年間について、率直な評価をお伝えしたいと思います。
(あくまで樋口の評価です)

◎良かった点は

- ・村長として気さくに話ができて、政策提案にも耳を傾けてくれた。
- ・樋口の環境保護活動に対して、行政あけて協力して頂いた。

◇評価できない点は

- ・役場内部の度重なる不祥事(村営墓地問題、姫まりもキャラクター問題、塩素薬剤水増し事件等)に対し、初期に隠れいをおこなない、調査や問題職員の処分が不公正。
- ・樋口からの改善提案や指摘も、聞き入れなかった。

- ・選挙人事をおこなない、副村長を一年交代で指名している。他の要職も同様、人事に公平性を欠き支持者や村民から反感や信頼を失った。
- ・職員評価が一面的で職員との対話が乏しく、職員のやる気を引き出していない。四年間で職員が十人以上も退職している。
- ・職員への聞き取りでは、大多数の職員からの信頼を失い、リーダーとしての体温も感じられず、残念。
- ・村長の目玉政策である「まちづくりに」で、東大の研究室や関連機関に莫大な税金(一億数千万円)を支出しながらも、評価できる成果が乏しく、施策実行力が期待外れ。
- ・公共事業等の入札について調査した結果、驚くべき高い落札率となっており国や村の法令・規則にも抵触し、税金の無駄遣いを改めない。
- ・外部の意見に安易に盲従しやすく、一部の利権的要請にも弱腰で、長として毅然とした対応ができず、公正な行政への期待に背いた。
- ・提案や指摘に笑顔で対応はするが、懸念している。今までの支援者や、手足となる職員からの信頼が薄いとを謙虚に受け止める必要がある。

落札率 99.8% の入札

平成27年度の競争入札による工事請負件数は11件で、総額は税抜きで約4億6千万円であった。落札率の平均は98.8%という他に比較的高い落札率である。低いもので97.0%一番高い落札率は「紅富士の湯」リニューアル工事」で、3億円を越す工事費が99.8%と、ほぼ100%で落札されている。しかも一般競争入札にもかかわらず恣意的に参加資格を限定し、参加者は一社のみで、予定価は公開されていた(官製談合の疑いが強い)さらに工事請負額の数倍になる委託費や物品購入は、相見積もとらないう任意契約で行われたものが多く、財務規則に違反している。

決定業者	決定額	決定方法
大塚建設・方かんう建設 山中湖温泉「紅富士の湯」リニューアル工事共同企業体	299,800,000	公開競争
入札番号	1	工事場所
事業名	山中湖村観光施設整備事業	大字
工事名	山中湖温泉「紅富士の湯」リニューアル工事	山中
入札参加業者	入札	随伴契約
	金額(円)	金額(円)
大塚建設・方かんう建設 山中湖温泉「紅富士の湯」リニューアル工事共同企業体	299,800,000	0
予定価格(四捨五入税別)	299,800,000	最高額超過額(消費税別)
		29,980,000

平成27年度決算認定に反対した。厳格な運用こそ行うべきである。なつて入札体制の抜本的な改革と、再選を目指す文教氏は、今回住民から出馬要請や推薦は一通もなく、役場職員からの信頼も失っています。上記記事のとおり、文教氏との面談では、これまでの同志・友人として、退きぎわの美を勧めました。

「信」なくば立たず

【「民無信不立」論語】

この言葉は、孔子が弟子から「政治において、最も大事なものは何か」との間に答えた、縮めた言葉です。よく政治を志す者が、この「信」を「信念」と解釈し「信念がなければ立候補しない」と使います。しかし、本当の意味は「民からの信頼」という意味です。「立たず」とは「成り立たない」ということです。

■村長選挙に関する考え

村長選のシヨリから、村民が分断されることを最も憂います。6千名が共に協力し、山積する村の問題解決に一致団結して前進する時です。その願いから、前々回は当時の両候補者に「大同団結」を訴え、前回は「融和と団結」の精神を文教氏に提案しました。なお「村民かわらばん」のバックナンバー第9号、20号、49号の記事も参考に「ご覧ください」。

村議ひぐちの
村民かわらばん
2016(平成28)年11月 第55号 発行責任者:ひぐち謹言
〒401-0502 山中湖村平野1698 TEL&FAX: 0555-65-7023
ホームページ「ひぐち.com」

六年の村長選から村改革の同志である文教氏を裏面から全力で支援することを伝えました。選挙の結果は、ご存じのとおり38票という僅差で当選。八年ごしで村の改革が始まると喜びました。当時樋口は議員ではありませんでしたが、側面から協力し、村民の希望を探り入れた多種多様の提案をしました。四年という時は矢のように過ぎ、樋口も昨

先日文教候補と長時間面談し、右記の四年間の感想を率直に伝えました。現状では樋口の周囲の人は期待外れであると感じていること。現在核となっている選挙支援者や手法が、旧来型のしがらみや締め付けの情報があり、このままでは村民の人心が荒廃することを

文教候補と面談して

これ以上形式論「ごまかすのではなく、自分の人生と家族や村民を大切に、文教氏らしい、きれいな退きぎわを期待したい」と伝えました。